

ジェネリック医薬品使用状況に 関する分析資料

2025年2月作成



全国健康保険協会 和歌山支部
協会けんぽ

はじめに

政府は、「経済財政運営と改革の基本方針2021」(令和3年6月18日閣議決定)において、全ての都道府県でジェネリック医薬品の使用割合(数量ベース)を、2023(令和5)年度末までに80%以上とすることを目標として定めました。

協会けんぽ和歌山支部の現状は、ジェネリック医薬品使用割合が81.8%(令和6年8月診療分)となっており、目標の80%には達したものの、協会けんぽ全国平均の使用割合85.0%(令和6年8月診療分)を下回り、全国順位では使用率が高い順に44位と低迷している状況です。

そこで、加入者、医療機関、薬局の皆さまに現状をお知らせし、ジェネリック医薬品の使用にご協力をいただきたく、協会けんぽ和歌山支部におけるジェネリック医薬品の使用状況を様々な視点で分析した資料を作成しました。

本資料が、皆さまのジェネリック医薬品に対する理解の向上に役立ち、和歌山県内のジェネリック医薬品使用向上につながれば幸いです。

目次

1. 留意事項
2. ジェネリック医薬品使用割合の推移
3. 全国のジェネリック医薬品使用状況と和歌山支部の位置づけ
4. 二次医療圏別にみたジェネリック医薬品使用状況
5. 年齢階級別にみたジェネリック医薬品使用状況
6. 診療種別にみたジェネリック医薬品使用状況
7. 薬効分類別にみたジェネリック医薬品使用状況

1. 留意事項

◆集計に使用したデータと留意事項

- 1) **協会けんぽ(一般分)加入者**の医科、DPC、歯科、調剤レセプトを集計しています。
DPCレセプトは、コーディングデータを集計対象としています。
- 2) 「数量」は、薬価基準告示上の規格単位ごとに数えたものをいいます。
- 3) ジェネリック医薬品使用割合は、「**新指標**」による**数量ベース**で表示しています。

新指標によるジェネリック医薬品使用割合 =
$$\frac{[\text{ジェネリック医薬品の数量}]}{([\text{ジェネリック医薬品のある先発医薬品の数量}] + [\text{ジェネリック医薬品の数量}]}$$

- 4) 医薬品の区分は、厚生労働省「各先発医薬品の後発医薬品の有無に関する情報」によります。
- 5) 薬効分類は、「日本標準商品分類」の「中分類87－医薬品及び関連製品」に準拠しています。
- 6) 都道府県別集計は、加入者が適用されている事業所所在地ごとに集計しています。
- 7) 二次医療圏別集計は、**医療機関および調剤薬局の所在地**ごとに集計しています。
- 8) この資料で用いる「使用数量」は、上記4)の医薬品の区分のうち、[ジェネリック医薬品のある先発医薬品の数量]と[ジェネリック医薬品の数量]を合計したものであり、[ジェネリック医薬品のない先発医薬品の数量]などは含まれません。

◆ジェネリック医薬品への切り替えについて

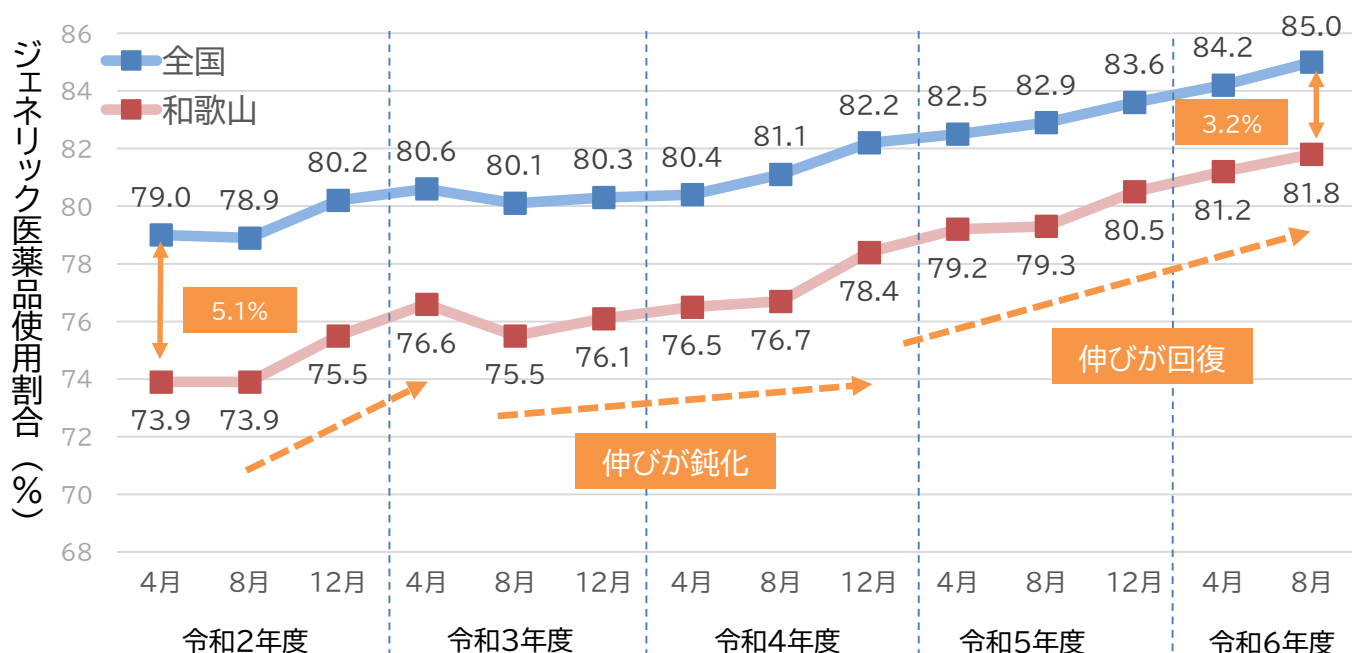
現在一部のジェネリック医薬品において、供給不足や欠品が生じており、切り替えを希望されていても難しい場合があります。切り替えを希望される方は、医療機関や薬局とよくご相談ください。

2. ジェネリック医薬品使用割合の推移

ジェネリック医薬品は、認知度の高まりとともに年々使用割合が増加しています。次のグラフは、令和2年4月以降の、全国と和歌山支部のジェネリック医薬品の使用割合の推移を表したものです。

ジェネリック医薬品使用割合の推移(数量ベース)

令和2年4月～
令和6年8月診療分



令和6年8月診療分

和歌山支部 81.8% (全国平均 85.0%)

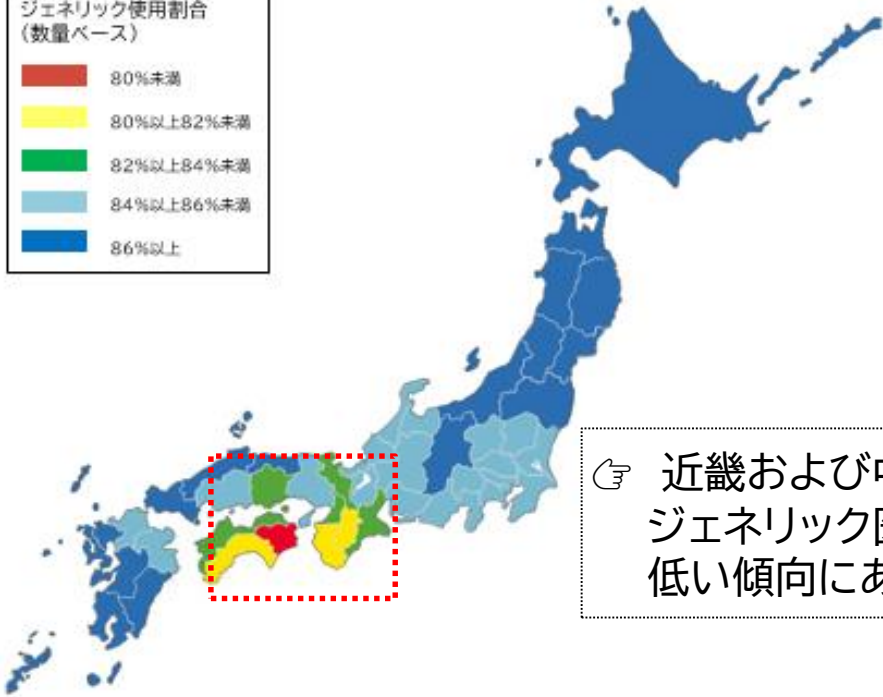
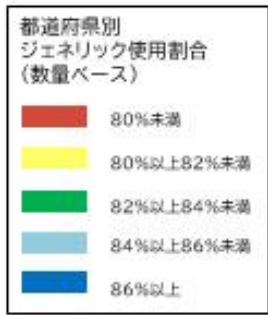
- 協会けんぽの全国平均は令和2年度に国の目標値80%を超えましたが、和歌山支部は、令和5年12月診療時点で、初めて80.5%と目標値には届いてはいますが、全国平均よりは低い割合となっています。
- 全国平均との差は3.2%で、令和2年度と比べると、1.9%差を縮めており、着実に全国平均との差を縮めている傾向です。
- 令和3年度以降は、使用割合の伸びが鈍化していましたが、令和4年12月から伸びが大きくなっています。



3. 全国のジェネリック医薬品使用状況と和歌山支部の位置づけ

ジェネリック医薬品使用割合

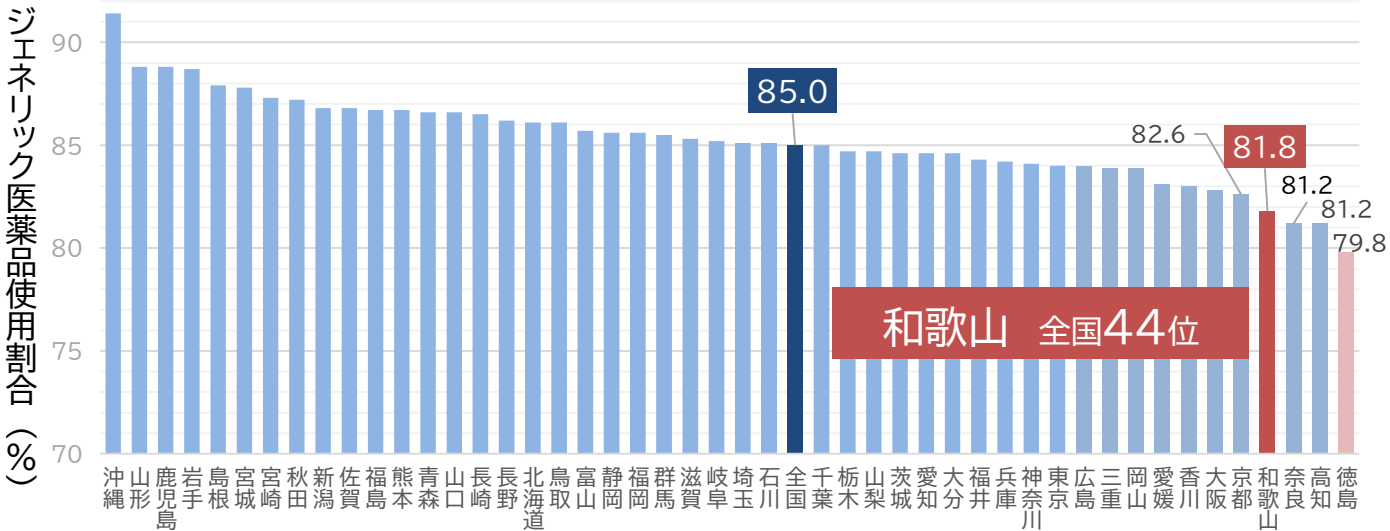
令和6年8月診療分



近畿および中四国地方では、ジェネリック医薬品の使用割合が低い傾向にあります。

ジェネリック医薬品使用割合の全国順位

令和6年8月診療分



全国では46支部が使用割合80%を超えています。
和歌山支部は81.8%(全国44位)と目標には達成したものの、低迷しています。

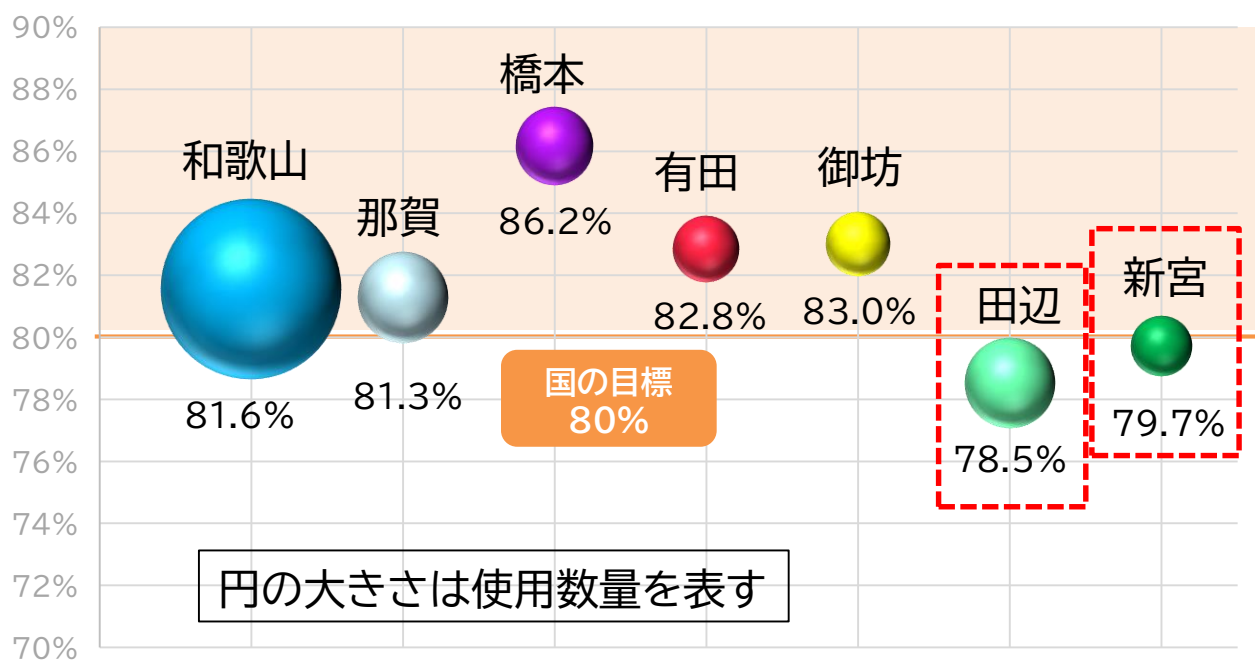
4. 二次医療圏別にみたジェネリック医薬品使用状況

次のグラフは、県内の二次医療圏(※)ごとのジェネリック医薬品使用割合と医薬品の使用数量(円の大きさ)を表しています。

令和6年4月時点の和歌山支部全体の使用割合は81.6%ですが、地域ごとにみるとジェネリック医薬品の普及度に差がみられます。

二次医療圏別のジェネリック医薬品使用割合と使用数量

令和6年4月
診療分



- 橋本医療圏は、県内で使用割合が最も高く85%を超えています。
- 一方で、**田辺医療圏**や**新宮医療圏**は使用割合が低くなっています。
- 使用数量は、和歌山医療圏が全体の半数近くを占めており、県内の使用割合に大きな影響を及ぼします。

(※) 二次医療圏(和歌山県)

和歌山医療圏:和歌山市、海南市、紀美野町

那賀医療圏:紀の川市、岩出市

橋本医療圏:橋本市、かつらぎ町、九度山町、高野町

有田医療圏:有田市、湯浅町、広川町、有田川町

御坊医療圏:御坊市、美浜町、日高町、由良町、印南町、日高川町

田辺医療圏:田辺市、みなべ町、白浜町、上富田町、すさみ町

新宮医療圏:新宮市、那智勝浦町、太地町、古座川町、北山村、串本町



5. 年齢階級別にみたジェネリック医薬品使用状況

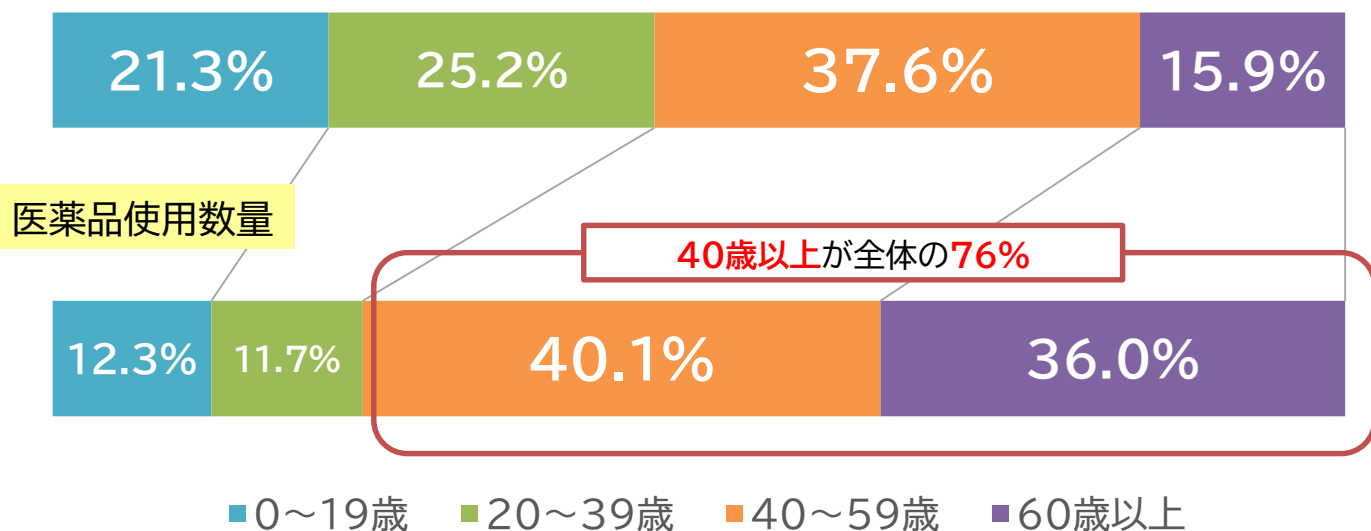
年齢層によって加入者数や医薬品の使用数量に違いがあります。また、ジェネリック医薬品の使用状況にも違いがあるため、年齢層ごとの医薬品使用数量とジェネリック医薬品使用割合の関係性をみることで、どの年齢層の方々のジェネリック医薬品への切り替えが、使用割合向上に寄与するのかがわかります。

① 和歌山支部加入者の年齢構成と医薬品使用数量の構成割合

令和6年8月診療分

和歌山支部の年齢階級別の加入者数と医薬品使用数量（[ジェネリック医薬品のある先発医薬品の数量] + [ジェネリック医薬品の数量]）の構成割合は、下のグラフのとおりです。

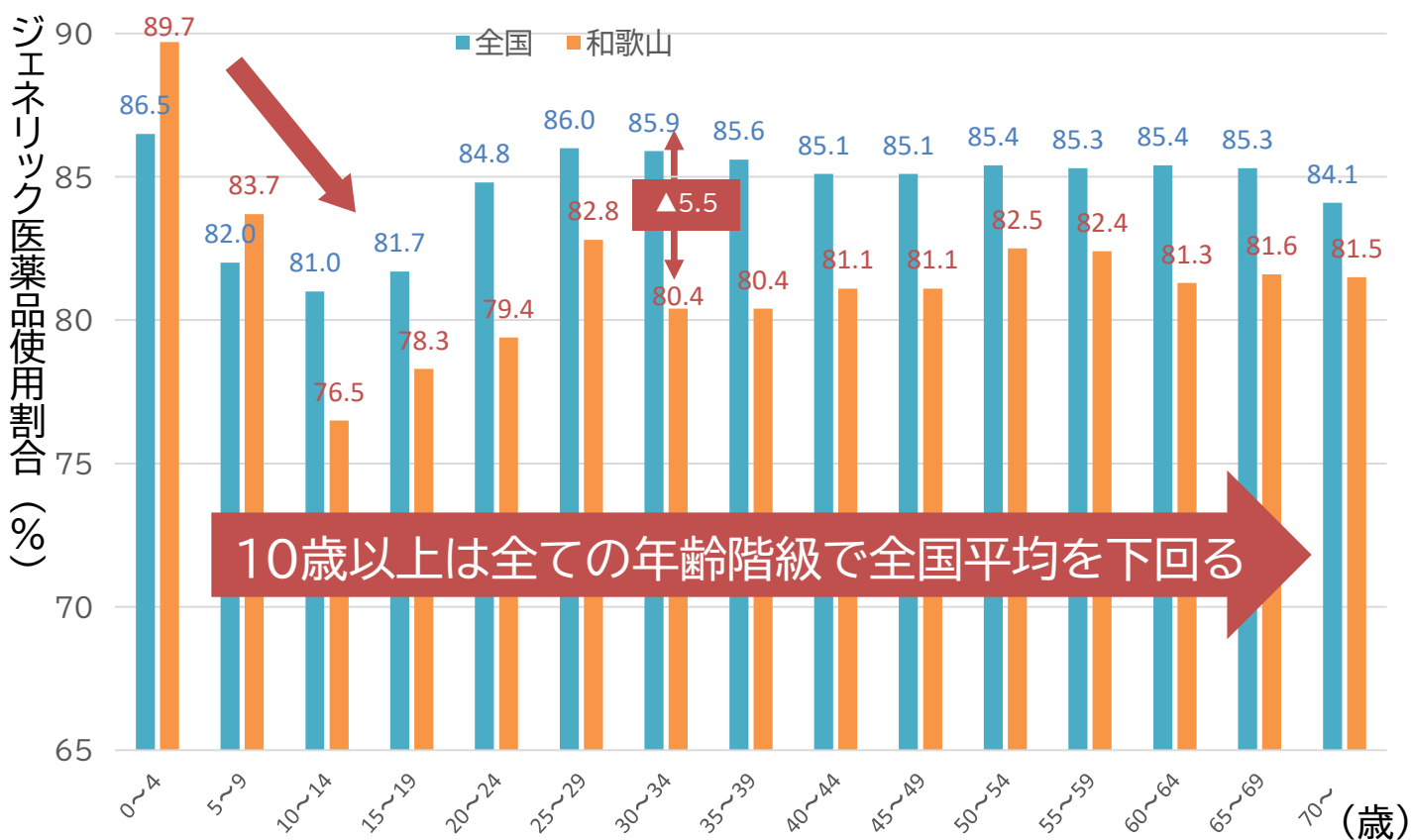
年齢構成



- ☞ 40～59歳は、加入者数が最も多く、使用数量も多い年齢層です。
- ☞ 60歳以上は、加入者数に比べて使用数量が多くなっているのが特徴です。
- ☞ 40歳以上の使用数量を合計すると、全体の76%を占めています。

② 年齢階級別のジェネリック医薬品使用割合(全国との比較)

令和6年8月診療分



- 10歳~24歳では、使用割合が80%を下回っておりそのほかの年齢階層では、使用割合は80%を超えています。10~14歳では全年齢階級で最低の76.5%にまで低下しています。
- 10歳以上は、全ての年齢階級で全国平均の使用割合を下回っています。
- 全国平均との差が最も大きいのは30~34歳で、▲5.5%の差があります。

医薬品の使用数量が多く、
全国平均よりも使用割合が低い
40歳以上の方々の
ジェネリック医薬品への切り替えが
使用割合向上に大きく寄与します。



6. 診療種別にみたジェネリック医薬品使用状況

ジェネリック医薬品の使用割合について、診療種別から分析をすると、次のことがわかります。

① 診療種別ごとの医薬品使用数量（[ジェネリック医薬品のある先発医薬品の数量] + [ジェネリック医薬品の数量]）の構成割合

令和6年8月診療分

和歌山支部 (%)

全国平均 (%)

医科入院 1.2

医科入院
1.2

医科入院外
26.9

医科入院外
14.9

調剤
71.6

調剤
83.6

歯科 0.3

歯科
0.3

12%
の差

- 調剤(薬局)と医科入院外(外来の院内処方)で出された薬が全体のほとんどを占めています。
- 和歌山支部は、医薬分業(医療機関で処方箋を発行して薬局で薬を調剤してもらうこと)が進んでおらず、外来時に病院内で薬をもらう割合(医科入院外)が全国平均よりも12%も高くなっています。これは、全国で2番目に高い割合です。



調剤(薬局)と医科入院外(外来の院内処方)で出ている薬が使用される薬のほとんどを占めていることがわかりましたが、診療種別ごとのジェネリック医薬品の使用割合を全国平均と比較すると、以下のとおりとなっています。

② 診療種別ごとのジェネリック医薬品使用割合

令和6年8月診療分

	全体	医科入院	医科入院外 (外来の院内処方)	調剤 (薬局)
全国平均	85.0%	85.5%	72.3%	87.3%
和歌山支部	81.8%	89.1%	71.3%	85.7%

- ☞ **医科入院外(外来の院内処方)と調剤(薬局)**のジェネリック医薬品の使用割合は、全国平均より**低く**なっており、医科入院外(外来の院内処方)は71.3%と80%を下回っています。
- ☞ 医科入院の使用割合は全国平均より上回っており、89.1%と全国平均より3.6%上回っています。

**外来時に院内（医科入院外）でもらう薬が
ジェネリック医薬品の使用割合に大きく影響します！**

薬の在庫状況等の理由から、外来の際に院内で薬を出してもらうより、薬局で調剤してもらった方が、ジェネリック医薬品を選択できることが多いです。

薬をもらう際には、医師または薬剤師に相談の上、ジェネリック医薬品への切り替えについてご相談ください。

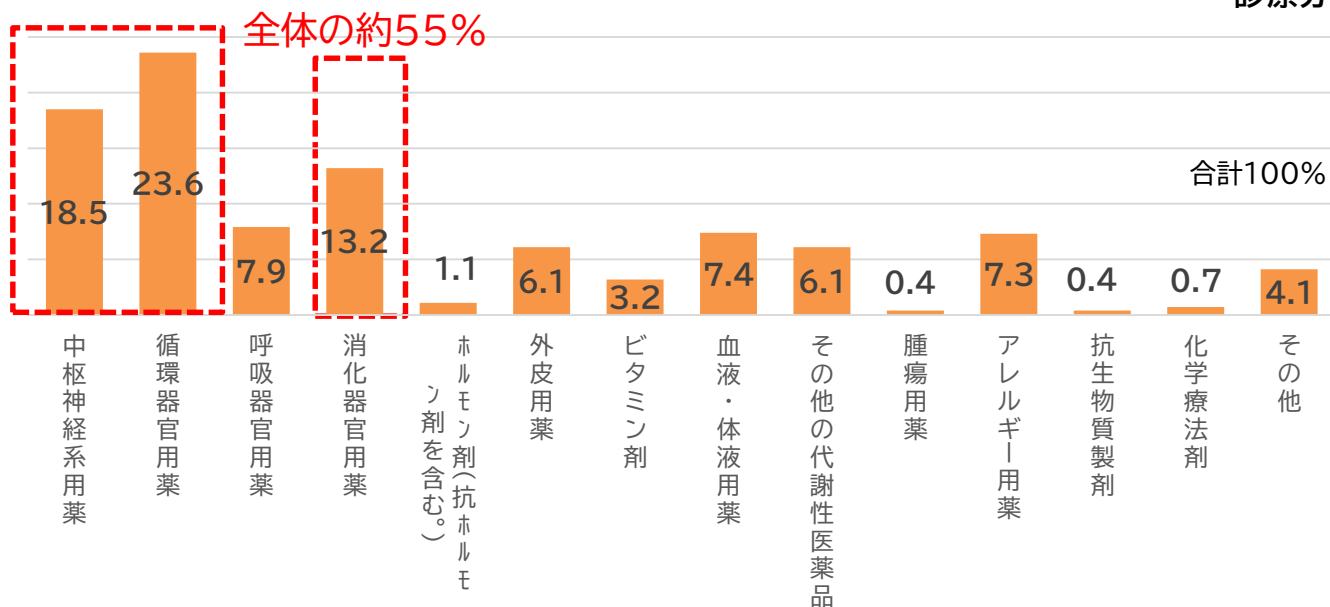


7. 薬効分類別にみたジェネリック医薬品使用状況

次の2つのグラフは、県内で使用数量の多い医薬品の薬効分類から順に、使用数量の構成割合とジェネリック医薬品使用割合を表したものです。どの薬効分類の薬がよく使われているのか、ジェネリック医薬品の使用が進んでいないのかがわかります。

① 薬効分類ごとの医薬品使用数量構成割合(和歌山支部)

令和6年8月
診療分



- ➡ **循環器官用薬**が県内で最も使用される量の多い薬です。
次に、**中枢神経系用薬**、**消化器官用薬**が続きます。
- ➡ 循環器官用薬、中枢神経系用薬、消化器官用薬の3つの薬効分類の薬が**全体の約55%**を占めています。

【循環器官用薬】

血液循環の改善等に使われる薬です。
高血圧、高脂血症、不整脈等の薬があります。

【中枢神経系用薬】

鎮静剤、精神安定剤、睡眠剤等の他に、
総合感冒薬(かぜ薬)や解熱鎮痛剤等も含まれます。

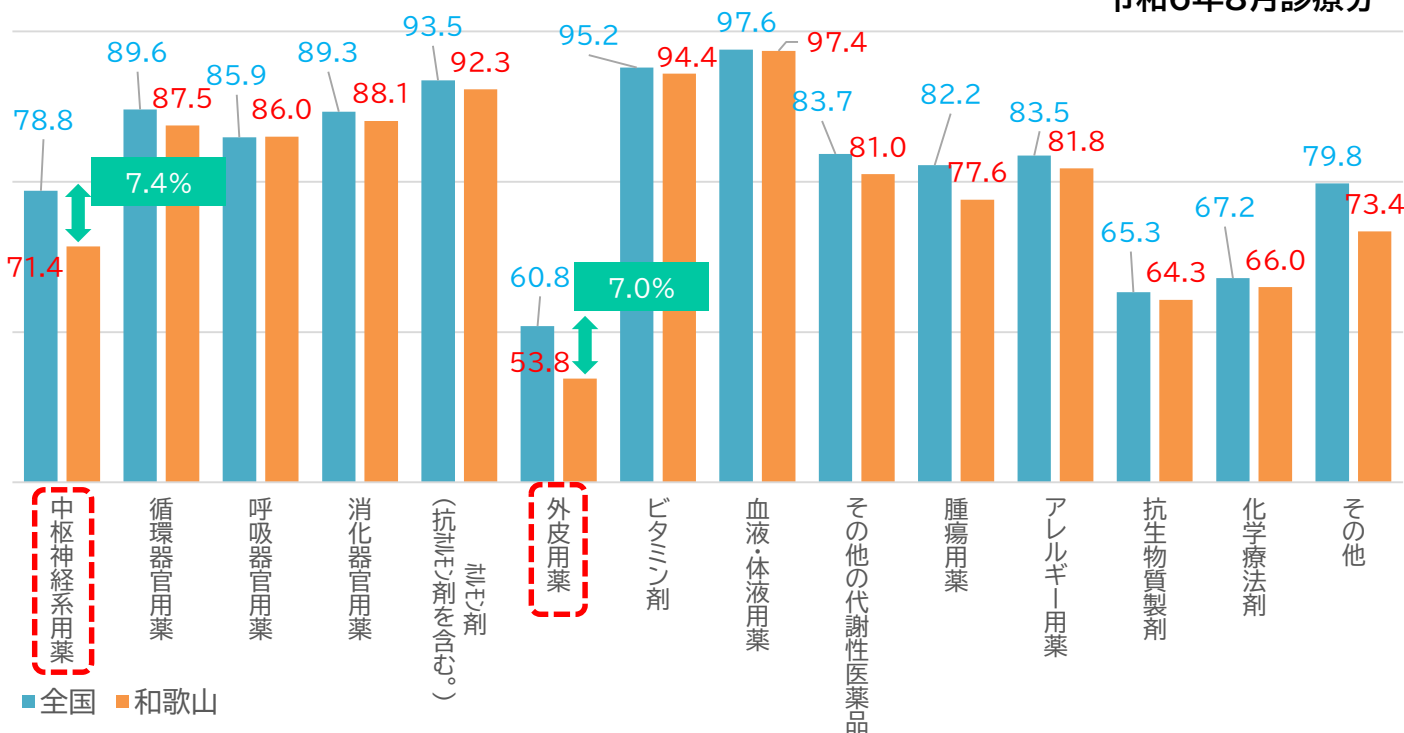
【消化器管用薬】

胃炎や胃潰瘍の薬、整腸剤、下剤等があります。



② 薬効分類ごとのジェネリック医薬品使用割合(全国平均との比較)

令和6年8月診療分



👉 **外皮用薬と中枢神経系用薬**は、使用数量の多い薬ですが、全国平均と比べてジェネリック医薬品の使用割合が**約7%低**くなっています。

【外皮用薬】

塗り薬や湿布薬等です。

使用数量が多い

- ①循環器官用薬
- ②中枢神経系用薬
- ③消化器官用薬

全国平均と比べてジェネリック医薬品の使用割合の差が大きい

- ①中枢神経系用薬
- ②外皮用薬

長期間服用する薬も多いことから、以前から服用している薬にもジェネリック医薬品に切り替えられる薬があるかもしれません。
一度、医師や薬剤師にジェネリック医薬品に変更できる薬がないか相談してみましょう。

